

新年好！ 日中友好運動の出番だ

日中友好協会倉敷支部理事長 宇野忠義

能登半島地震で始まり、気候危機の常習化＝温暖化対策の軽視、ウクライナ、ガザ地区の戦争など暗いニュースが多い 1 年でした。しかしながら、明るいニュースもありました。

政治とカネ、金権腐敗の自民党政治の追及を受けた衆議院選挙では改憲勢力が3分の2を割り込み、少数与党となり、アメリカと財界言いなりの政治にストップをかけられる可能性が増えたこと、また、日本原水爆被害者団体協議会(以下、被団協とする)の活動に対してノーベル平和賞が授与されたことは最高のニュースでした。

その授賞式における被団協の代表委員田中てるみ氏の講演は、ノーベル財団・ノーベル平和賞委員会を通じて全世界に発信され、世界史に記録されるべき文章となりました。

原爆被爆の実体験、実相を踏まえて、被団協は、「原爆被害は戦争を開始し遂行した国によって償われなければならない。核兵器は極めて非人道的な殺りく兵器であり、人類とは共存させてはならない。すみやかに廃絶しなければならない。」ということ掲げて、70年近く運動してきました。政府の無視、軽視や原爆被害への無理解にも苦しみながら、地道に、不屈に生命をかけて、運動の灯をともし続け、語り伝えて来ました。そのことがやっと評価され、人類史の記念碑となりました。

ところで、最近発表された日中両国の国民感情に関する調査では、日本、中国ともそれぞれの相手国に対する好感度が非常に低くなっており、それぞれ10%台であることは極めて憂慮すべきことです。

日中不再戦、平和友好、相互理解と信頼関係の重視を掲げる日中友好協会の70年以上にわたる運動は、東アジアの平和賞に値する運動として評価されるべく、2025年に臨みたいと思います。

あけましておめでとうございます。昨年は、世界が大きく右傾化しました。日本でも右寄りの声がおおきくなってきています。私たちは再び戦わないために、周辺の国々と友好を深め、交流をしなくてはなりません。今年も中国語や太極拳、帰国者との交流などを通して、日中友好を深めていくよう努力します。

新年快乐! 去年世界急右倾。虽在日本,右倾声愈亮。为不战,须深周边国家交。今年努力中文太極拳, 归国人来厚日本。

日中友好協会岡山支部 支部長 真田紀子

1037

2025/1/1

< 岡山芳泉高校で講演 > ②

2024年10月28日(水)岡山芳泉高校体育館

近現代史研究者 青木康嘉

中国残留日本人孤児裁判元原告団長 高杉久治
<高杉久治>

高杉久治がたどたどしい日本語で孤児になったいきさつをはなしました。優しい養父母に大事に育てられた時の話は涙を流しました。父親との劇的再会を果たしたこと、帰国した後の話を感動的に30分話しました。

生い立ちの話では、まず七虎力開拓団の全体像を説明しました。昭和20年8月15日馬車80台で七虎力開拓団から逃避行する時、私は3歳で、母親と弟の3人での逃避行が始まりました。父親を始め開拓団の男達はほとんど召集されていました。張家屯という場所で開拓民は「土匪」に襲われました。その際、母と手が離れて私は翌朝中国人によって麻畑で発見されました。養父母は、私を「艾樹章」と名前を付けてくれ、学校に行かしてくれました。養母は豊かではなかったが、凍傷にならないように綿入れの服や帽子を作ってくれました。林業専門学校を出て、林業駅のエンジニアとなり、秦鳳珍さんと結婚して子供が3人うまれました。

「樹高千丈、落葉帰根」という言葉があります。日中国交回復後、自分は日本人で、日本は祖国であるという思いが強くなってきました。どうしても肉親を捜したいと思い、元七虎力開拓団を訪ねたが自分は誰かわからなかった。(裏に続く)

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rizhongyouthao.iinaa.net>
メールアドレス
rizhongyouthaoxiehuiokayama@yahoo.co.jp



岡山県庁に自分の写真を送ったところ、七虎力会の会合で「高杉方一の息子さんではないか」という声があり、父親の写真が中国へ送られました。それが中国公安局外事課の耳に入り、第3次訪日調査団に加わりました。決め手になったのは私の頭の子どもの時のヤケド痕でした。父は、シベリア抑留後日本に帰り、再婚して玉野市に住んでいました。岡山に来て墓参りをして、母と弟が亡くなっていることを知りました。

1988年、47歳の私は4か月の大阪自立支援研究センターで日本語研修を受け、岡山県営住宅に入居しました。日本語も生活習慣も分かりません。妻が入院して、子どもの学校もありました。病院へ行っても医者の説明がわかりませんでした。県庁の人は私に早く働けといいますが、日本語も分からないのでなかなか仕事が見つからない。自動車の部品工場で働きましたが、仲間とのコミュニケーションが取れなくて、ストレスがたまりました。

定年退職後、国民年金や厚生年金がわずかで生活が出来ず、生活保護を受ける立場になりました。わたしたちが孤児になった原因は、日本政府の移民政策であり、敗戦後私たちは日本政府に見捨てられました。そのため裁判に訴えるしかありません。最後に若い皆さんに2つ訴えたいことがあります。一つは、絶対に戦争してはいけないということです。もう一つは隣国の中国ともこれから仲良くやってほしいと思います。ありがとうございました。

<岡山芳泉高校の生徒アンケート>

岡山芳泉高校生徒数約960人、アンケート
アンケート回答数

1年生 195名、2年生 141名 3年生 89名

3年生は、受験生として推薦入試・AO入試など多忙な時期と重なった。

アンケートの集計結果は、同一人物複数の感想があり、それぞれ人数とした。

アンケート結果

<中国残留日本人孤児のことがよくわかった。高杉さんの孤児の大変さを知るきっかけとなった>

1年生 66人 2年生 28人 3年生 32人 計 126名

<中国残留日本人孤児のことを生の声(直接体験者から)を聴けたことがよかった>

1年生 51名 2年 41名 3年生 33名 計 125名

<高杉さんの40歳過ぎて日本語を学び、たどたどしい所はあったが、とても感動(すごい!と思った)した>

1年生 27名 2年生 31名 3年生 16名 計 73名
<高杉さんが二つの祖国と父親との再会が出来たことに感動した>

1年生 19名 2年生 32名 3年生 12名 計 63名
<青木・高杉の話聴いて、平和の大切さ、二度と戦争はしてはいけないと思った>

1年生 22名 2年生 14名 3年生 12名 計 48名
<青木・高杉さんの話(中国残留日本人孤児)を聴いて人権の大切さを知った>

1年生 21名 2年生 12名 3年生 5名 計 38名
<高杉さんが養父母の優しくった時の話をするとき流した涙に感動した>

1年生 12名 2年生 19名 3年生 5名 計 36名
<青木・高杉さんの話を聴いて、日本政府の冷たい支援体制や裁判に訴えるしかなかった実情を知った>

1年生 18名 2年生 13名 3年生 計 31名

<その他>

*中国で高杉さんが受けた差別やいじめに腹が立った。5名

*残留孤児の人達との交流が大切と思った。3名

*ちばてつやさんの『ひねもすのたり』などマンガを読んで中国残留孤児のことを知った。2名

*中国はひどい、よくない。2名

*中国人の話を聴けて良かった。1名



お知らせ

日中友好協会倉敷支部映画会

「大地の子」第8部「密告」第9部「父と子」

1月11日(土) 14:00~

ライフパーク倉敷中ホール

次回の新聞発送作業は
1月14日(火)午前10時半か
ら民主会館で行います。
前回お手伝いくださった方
です。

犬飼
河井
真田